

持続可能な社会
の構築に向けて

千葉大学西千葉キャンパス
教育学部 2号館
2101 教室

参加費無料

8.21. Mon

9:30-16:30
〈受付・9:00-〉

千葉大学ESD研究会

主催：千葉大学教育学部
共催：千葉県高等学校教育研究会 ESD 部会
後援：千葉県教育委員会
公益財団法人日本ユネスコ協会連盟
公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター
公益財団法人五井平和財団

PROGRAM

*昼休憩以外にも休憩時間を
設けてあります

受付 9:00-9:30

開会式 9:30-9:40

シンポジウム 9:40-12:00

昼休憩 12:00-13:00

講演会 13:00-14:20

ワークショップ 14:20-16:20

閉会式 16:20-16:30

持続可能な社会 の構築に向けて

本研究会について

世界では日々さまざまな問題が噴出しています。特に近年は欧米の先進国を中心に、「グローバリズム」「寛容性」「共生」の有り方が揺らぎつつあり、わが国においても特に震災以降、社会の有り方やその持続が問われるような問題が取りざたされています。そしてこれらの問題の多くは未だ解決をみていません。

このような状況に対して教育、殊に持続可能な社会を構築していく人材の育成を目指すESDは、理論と実践においていかにアプローチをするべきなのでしょう。

本研究会では、「防災」「地域」「ボランティア」「平和」に関わる専門家の方々を招き、これらの視座から社会の持続と教育の可能性について問い直したいと思えます。

持続可能な未来に向けて教育のあり方を変えていこうとする「持続可能な開発のための教育」(Education for Sustainable Development=ESD)の推進がグローバルレベルで行われています。2002年持続可能な開発に関する世界首脳会議において、日本の政府とNGOは、「ESDの10年(2005~2014年)」を共同提案し、ESDを「一人ひとりが、世界の人々や将来世代、また環境との関係性の中で生きていることを認識し、行動を変革するための教育」と定義しました。ESDでは、環境だけでなく、社会、文化、経済、政治的側面と関連づけ、社会を変革していくための教育として、持続可能な開発に関する価値観(人間の尊重・多様性の尊重・非排他的性・機会均等・環境の尊重など)、体系的な思考力(問題や現象の背景の理解・多面的かつ総合的なものの見方)、代替案の思考力(批判力)、データや情報の分析能力、コミュニケーション能力、リーダーシップの向上の育成が重要視されています。そのため、参加型や合意形成のための学びの方法や地域社会との連携が求められています。ESDの対象となる課題は、環境教育、エネルギー学習をはじめ、国際理解学習、生物多様性、その他、人権・ジェンダーなど多岐にわたるものですが、学校教育では、幼小中の新学習指導要領に「持続可能な開発のための教育」が明示され、すでに、さまざまな教科においてESDの実践が蓄積されつつあります。

PROGRAM 1

シンポジウム

9:40 - 12:00

会場: 2101教室

テーマ ▶ いのちを守る - 地域を知り、人を知る 感性を磨く防災教育 -

東日本大震災以降、防災や安全に対する関心が社会的に高まっています。有事の際、自分や大切な人の命を守る方法を知ることが多くの人から求められています。また、被災後に以前の地域社会や日常生活を取り戻し、それを持続的に発展させていく上でたいへん重要な意味合いがあります。第一部では、釜石の中学校における防災教育実践者であり、現在岩手大学に籍を置く森本晋也准教授と、震災当時中学生として震災を生き抜いた若者(現在大学生)を招き、認定NPO法人かながわ311ネットワークの伊藤朋子氏、石田真実氏と共に、防災教育に関するシンポジウムを行います。

▼司会

伊藤朋子 / 認定NPO法人かながわ311ネットワーク

▼シンポジスト

森本晋也 / 岩手大学大学院教育学研究科(教職大学院)准教授
もりもと・しんや 釜石での被災体験をもとに、それまでの防災教育の検証と、今後の防災教育の展開に関する研究を手掛ける。

石田真実 / 認定NPO法人かながわ311ネットワーク

いしだ・まみ 認定NPO法人かながわ311ネットワーク防災教育担当理事。元中学校教師で防災士。2011年3月の東日本大震災発生時から2年間は、神奈川県被災地支援事業の事務局を務めた。2013年5月に当団体を設立。2015年4月からの2年間、神奈川県教育委員会との協働事業で「かながわ版防災教育プログラム」をモデル開発し、現在は小中学校・高校の生徒や先生を対象に、同プログラムの普及啓発に取り組んでいる。

PROGRAM 2

講演会

13:00 - 14:20

会場: 2101教室

テーマ ▶ 今、若者に期待すること

今後、社会の在り方やその持続性を問う上で、他の世代、特にこれからの社会の構築を担う若い世代には、何を伝えていくべきなのでしょう。第二部では、国際的な平和活動に尽力されている西園寺裕夫氏を招き、「今、若者に期待すること」というテーマのもと、次世代の若者たちに向けての講演をしていただきます。

西園寺裕夫 / 五井平和財団理事長

さいおんじ・ひろお 学習院大学経済学部卒業。ミシガン州立大学大学院修了(MBA)。ワールド・ピース・ソサエティ理事長(国連広報局NGO)、日本ユネスコ国内委員会委員などを歴任。民族・宗教・政治を超えたユニバーサルな世界平和活動を国際的に展開するとともに、国際機関、各国大使館、教育機関、NGOなどと協力し、平和教育、国際交流、五井平和賞、フォーラム・講演の開催など、平和の構築に向けた様々な事業を展開している。

テーマ

持続可能な社会を推進するために私たちは何をなすべきか

ESDでは「持続」が重要なキーワードになっています。しかし各々が具体的に「何を」「どのように」持続させるのかということを中心化し、そして「なぜ」持続させる（させたい）のかという根本の動機を持たなければ、継続的な実践には結びつきません。第三部のワークショップでは、「防災」「地域」「ボランティア」「平和」という4つの専門性に関わる活動をされている方々にファシリテーターをしていただき、4グループに分かれてアクティブ・ラーニングを行います。



グループ①

◆
防災

ファシリテーター

伊藤 朋子

認定NPO法人 かながわ311ネットワーク
代表理事

認定NPO法人かながわ311ネットワークは、東日本大震災以降、被災地を応援することと震災の経験を神奈川に活かすことをミッションとして活動しており、現在は防災教育事業を活動の柱としています。「防災グループ」では、自分の命を守り被害を減らすために一人ひとりにできることは何かを考えます。

いとう・ともこ 認定 NPO 法人かながわ 311 ネットワーク代表理事。防災士 理学修士。東日本大震災をきっかけに、災害支援、防災の活動を始める。元々の職業テクニカルライターを活かし、災害情報活用研究や、防災に SNS を活かす講座などを行い、災害時の情報発信や活用事業を担当している。災害情報の活用を県域に広める「かながわ災害情報連絡会」に副代表も務める。2016年には、熊本県宇城市での熊本地震支援活動を情報面から支援した。

グループ②

◆
地域

ファシリテーター

富樫 泰良

一般社団法人 オール・ニッポン・レノベーション
代表理事

オール・ニッポン・レノベーション (ANR) は、若者の力で地域の魅力を再創造し、持続可能な社会を実現することを目的として地域活性化事業を行っています。「地域グループ」では、様々なデータを用いて自分たちと「地域」の関係を理解した上で、地方の抱える課題を多角的に分析して解決に結びつける一連のアプローチを体験します。

とがし・たいら 2009年に中学生、高校生主体の国際ボランティアネットワーク CWPJ を 12 歳で発足。東日本大震災の被災地でこども神輿を復活させるなど地域コミュニティづくりを中心に活動。史上初めて学生で「NHK 日曜討論」に出演したほか「あさいち」や「プライムニュース」等でもスタジオ出演。2016年の参議院議員重点政策若者議会推進・若者担当大臣・これに変わる部局の設置等の提案者。著書に「ボクらのキボウ 政治のリアル」。外房経済新聞編集長。ANR 代表理事。

グループ③

◆
ボランティア

ファシリテーター

高野 直美

千葉県立四街道高等学校 養護教諭

「ボランティアグループ」では、高等学校の養護教諭を務める傍ら、生徒のメンタルケアの一環として地域の施設と協働でボランティア活動を行っている高野直美氏と共に、ボランティア体験を通じて得た感情や気づき、心境の変化をもとにボランティアを通じた学びとその将来性について考えます。

たかの・なおみ 千葉県立四街道高等学校養護教諭。様々な悩みを抱える思春期の生徒達の精神的成長を支援するため、学校の近くの施設で地域ボランティア活動を試みている。この活動は、実社会に触れ、多様な人々との交流を通して、生徒達にとって自己を見つめ直し、将来に対する展望をもつきっかけとなっている。勤務したそれぞれの学校で携わった特色ある交流活動は、地域と学校の信頼関係の構築にも寄与しており、発展的に継続されている。

グループ④

◆
平和

ファシリテーター

中山 樹

公益財団法人 五井平和財団
事業ディレクター

五井平和財団は、世界の人々が共通の責任と使命を果たしていくために平和意識を啓発する活動や、教育・科学・文化・芸術などの英知を結集したネットワークづくりを推進しています。「平和グループ」では、さまざまな分野を横断する広い視点で、平和な社会の実現のために当事者として一人ひとりにできることは何かを考えます。

なかやま・たつる 筑波大学国際関係学類卒業、スペイン・ジャウメー世大学院平和開発学国際修士課程修了。大学在学中に1年間、米国 NPO 法人 Up with People のミュージカル「Rhythm of the World」世界ツアーに参加。4年間の在ベトナム日本国大使館勤務を経て、2000年五井平和財団、2015年より現職。青少年教育事業担当として、ESD、平和教育、国際理解教育を推進。千葉県立高校の開かれた学校づくり委員、公立小学校 PTA 会長等を歴任。通訳案内士（英語）。



会場案内

教育学部2号館2101教室



受付、第一部のシンポジウム、
第二部の講演会の会場です。
ワークショップは別教室です。



申込方法 << 7/31 締切 >>

必要事項【氏名、性別、参加人数、住所、電話番号、メールアドレス、職業・所属、参加を希望するワークショップのグループ名（第1、第2希望）】を明記してメール、もしくは参加申し込み用紙（↓）に必要事項を記入の上でFAXをお送りください。

- * 団体での参加を希望される場合は、人数を明記の上、代表者の方の名義で必要事項を書いてください。
- * ワークショップのグループは、先着順で決定します。人数の都合上、希望以外のグループになる場合がありますのでご了承ください。

MAIL → afna4266@chiba-u.jp
FAX → 043-290-2584



問合せ先

千葉大学ESD事業事務局

TEL → 043-290-2584

MAIL → afna4266@chiba-u.jp

WEB → moasys.co.jp/chiba-u.esd/



FACEBOOK

Googleのフォームから「千葉ESD FaceBook」で検索、またはQRコードからアクセス



参加申し込み用紙（FAX用）

ふりがな 氏名	性別	人数
住所 〒	TEL :	
* 活動報告書とニュースレターの送付を (希望する・希望しない)	メール :	
職業・所属	ワークショップ	第1希望 () 第2希望 ()